



鉄鋼各社におけるオンライン情報検索利用の現状

—鉄鋼技術情報センター共同研究会報告—

山田 幸夫*

On the Use of On-line Information Retrieval in the Iron and Steel Companies —Report of the Joint Research Society, ISIJ-JISTIC—

Yukio YAMADA

情報の氾濫時代を迎え、専門情報サービス機関によるオンライン技術情報検索システムは、研究や技術開発活動にとってなくてはならないツールとなつている。昭和53年7月、日本科学技術情報センター（JICST）がJOIS-Iとして公衆回線によるオンライン情報検索サービスを開始して以来、JOIS-IIへの機能の向上、ICAS (International Computer Access Service) 経由による海外データベースの利用、日本特許情報センター（JAPATIC）による特許情報としてのPATOLISのサービス開始等により、わが国におけるオンライン情報検索は質量ともに急速の発展を遂げた。鉄鋼各社においても、国内外の情報入手に対するニーズは高く、オンライン情報検索サービスの開始当初からこれを導入し、積極的に利用してきている。58年4月開催された鉄鋼技術情報センター（JISTIC）第6回共同研究会において、「オンライン情報検索利用の現状と問題点」というテーマで、鉄鋼各社に対して行われた調査結果が発表された。その際にとりまとめた結果の概要を次に報告する。

この調査は、JISTIC 情報検索委員会が中心になつて調査項目を決め、記入用紙の様式、記入要領、記入例を作成した。これを同委員会に加入する10社の委員を経て、各社の関係者に配布し記入してもらつた。この調査の時期は、58年3月1日現在とし、統計値は原則として、57年7～12月の6か月間の実績を採用した。

調査結果と考察

1. 端末機設置状況

情報サービス機関のホストコンピュータに接続する検索用端末機は、新しいサービスが加わるに伴い増設され、58年3月現在、10社中9社の情報管理部署58か所において合計74台が設置されている（59年3月末までの予定も含む）（図1）。

2. 利用状況

利用部署を本社、研究所、製造所、エンジニアリング

の4部門に分けた場合、オンライン検索を料金の点で最も多く使用している部門は全システムを対象にすると、本社である（表1）。しかし、PATOLISを除くと、エンジニアリング部門が利用回数、接続時間ともに最も多くなる。これは特許情報の検索は本社がまとめて行う部署が多いことを意味し、また、鉄鋼会社のエンジニアリング部門は鉄鋼部門よりもニーズが高いということが分かる。

システム別の利用状況（図2）をみると、利用回数および接続時間では、JOISが最も多いが、料金では、PATOLISが最高である。世界最大のシステムであるDIALOGについては、接続時間が全体の16.1%であり、JOISの補完的役割を果たしている。さらに、データベース別（表2）にみると、JOISではJICSTファイルが97.6%と大部分を占め、DIALOGではMETADEX（金属工学）、CASEARCH（化学）、COMPENDEX（工学全般）などが多く利用されている。

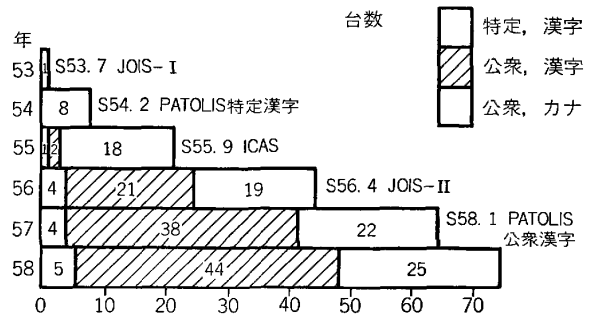


図1 端末機設置状況

	(%)				
利用回数 回/月	JOIS 44.4	DIALOG 18.5	PATOLIS 31.2	その他 5.9	
接続時間 h/月	JOIS 40.9	DIALOG 16.1	PATOLIS 27.1	その他 15.9	
料金 千円/月	JOIS 29.2	DIALOG 16.7	PATOLIS 46.2	その他 7.9	

図2 システム別利用状況

昭和58年6月17日受付 (Received Jun. 17, 1983)

* 本会鉄鋼技術情報センター情報検索委員会委員 日本鋼管(株)技術開発本部特許室 (Patent Sec. Eng. R & D Div., Nippon Kokan K.K., 1-1-2 Marunouchi Chiyoda-ku 100)

表1 部門別利用状況

	全システム		除 PATOLIS						テーマ数		対象部署数
	料金		利用回数		接続時間		料金		平均 件/月	最大 件/月	
	平均 千円/月	%	平均 回/月	%	平均 h/月	%	平均 千円/月	%			
本社 研究所 製造 エンジニアリング	397	48.4	36.3	25.7	8.00	30.3	135	28.3	9.9	25.0	13
	137	25.8	31.9	37.7	4.47	29.2	95	33.3	9.2	24.2	20
	83	12.5	22.2	19.6	2.57	13.2	57	15.0	6.1	12.0	16
	283	13.3	57.5	17.0	19.86	27.3	268	23.4	22.8	40.8	5
全体	197	100.0	32.6	100.0	5.94	100.0	110	100.0	10.0		54

表2 データベース別利用状況

JOIS		DIALOG	
データベース	%	データベース	%
JICST81	57.1	METADEX	31.7
JICST7580	40.5	CASEARCH	14.8
CASEARCH	1.4	COMPENDEX	12.8
COAL	0.3	CLAIMS	11.2
JCLEARING	0.2	NTIS	4.2
その他	0.5	その他	25.3
計	100.0	計	100.0

検索の頻度を表すのにテーマ数がよく用いられるが、これは特許関係を除くと、平均10件/月となっている。

3. 利用体制

調査前、各社でオンライン検索はどのような方法で実施されているかが大いに関心が持たれていた。検索作業をシステム・データベースの選定、キーワードの選定、質問式の作成、端末機の操作に分けて調査したところ、情報管理部署の専任者に全面的に依頼する場合は全体の15%、反対にエンドユーザーに完全に開放しているのが8%、残りの77%がエンドユーザーと専任者との共同で実施していた。とくに、キーワードの選定だけを両者共同で行い、他は専任者だけで処理するという場合が最も多かった。この専任者は他の業務との兼任であるが、内訳をみると、管理職、一般男子および女子がそれぞれ1/3ずつであった。

検索結果の評価については、半数以上の情報管理部署が現在または過去に何らかの方法で実施している。評価方法としては、用紙にエンドユーザーに評価項目を記入させる場合もあるが、検索の立会いの過程でエンドユーザーの評価を感じとる場合が多いようである。

利用体制の調査では、前記のほか、予算管理、関連会社へのサービス、サーチエードなどについても有用な結果が得られた。

4. オンラインによるSDIサービス

最近のSDI(Selective Dissemination of Information)は、端末機を用いてオンラインで直接ユーザーから外部情報機関のシステムに質問式を登録し、新発生の二次情報の提供を定期的に受ける方式が多くなっている。本調査でも10社中7社までがJICSTの提供するオンラインによるユーザーSDIのサービスを利用している。また、DIALOGのSDIを併用しているところも1社あった。オンラインによるSDIは質問式による登録や取消しが簡単で、かつ料金も比較的低廉なので、他の方式、すなわち購入磁気テープによる自社システムや外部情報機関作成のスタンダード方式から切り替えられつつある。

5. 社内ユーザーへのPR

各社とも端末機の設置時には、社内のユーザー対象者に説明会を開催し、システムの紹介やデモンストレーションを実施している。その他にも種々の機会を捕らえての説明会や社内向け広報誌を利用するPRを行っている会社が多く、このシステム利用については社内でもかなりよく知れわたっているような印象を受けた。また、満足できるような結果が得られる検索を行うことも利用の増進のために重要であるとの意見もあつた。

今回の調査により鉄鋼各社におけるオンライン情報検索利用の実態をかなり詳細に把握できたことは大きな収穫であった。今後の動向としては、各社とも他の予算は削減されても、オンライン検索関係の予算は横ばいしないしは若干増加の予定と報告しており、この分野に対する要請は強い。オンライン情報検索サービスを構成する諸要因、すなわちデータベース、検索用ソフトウェア、通信ネットワークおよび端末機が、今後技術的にも制度的にも漸次改善、向上の傾向にあり、ユーザーの強いニーズとあいまって、このサービスは着実な発展を遂げるものと思われる。